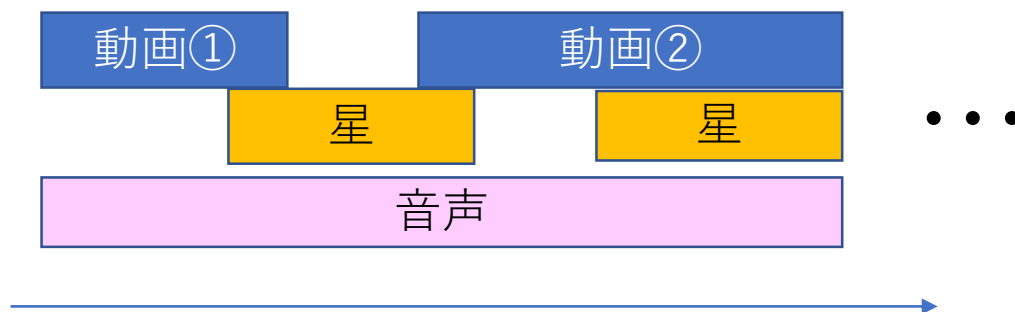


ドーム映像制作フロー

2つの番組タイプ

1. プラネタリウム併用作品

スクリプトで、タイミングにあわせて、動画を再生したり光学式プラネタリウムやデジタルプラネタリウムから星を出す作品。音はMTRデッキから再生。

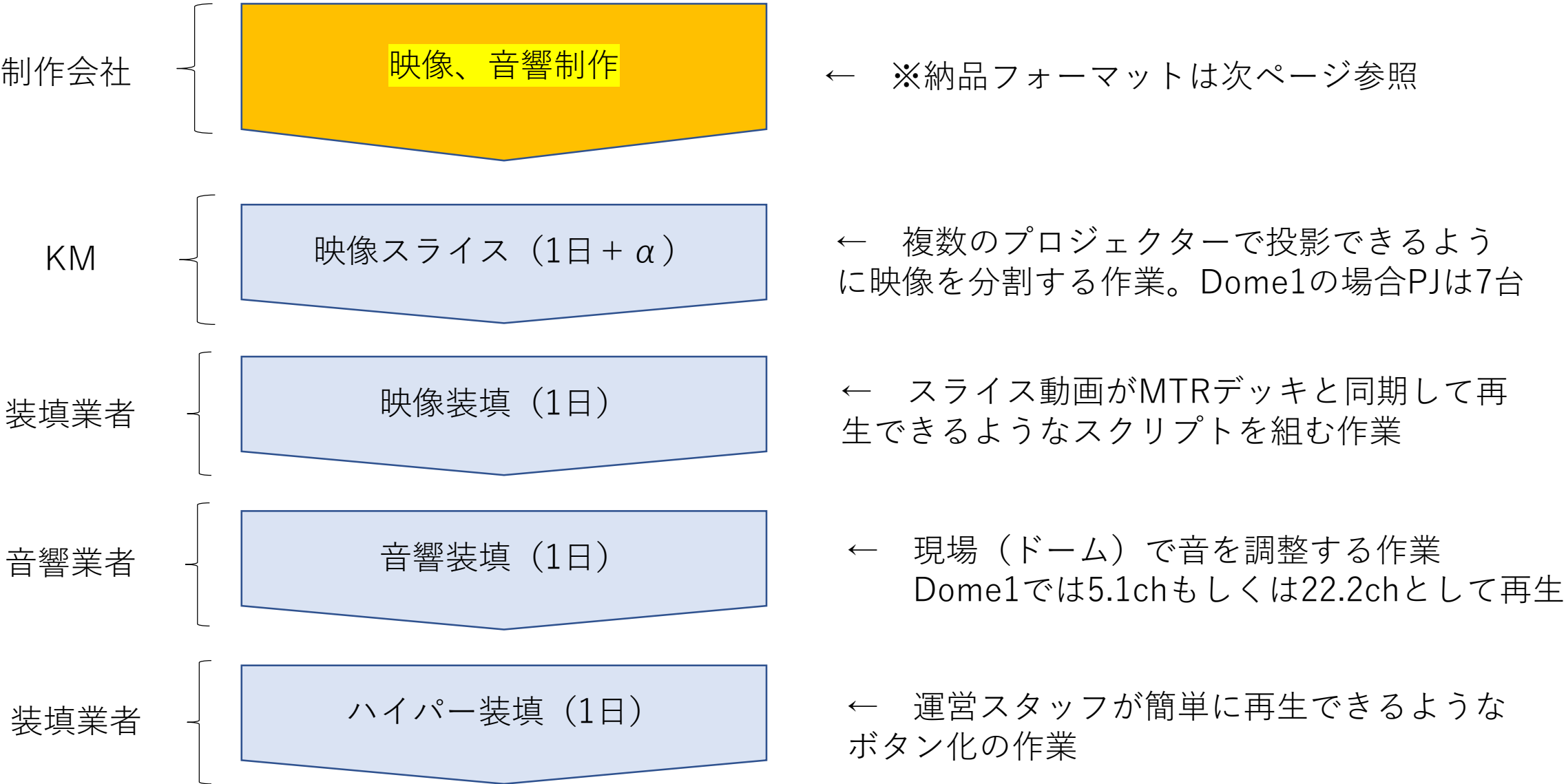


2. フルデジタル作品（完パケ作品）

1本の動画ファイルとして完パケされた作品をスクリプトから再生。音はMTRデッキから再生。



大きなワークフロー（完パケ作品）



Dome1向け納品フォーマット（スライス前）

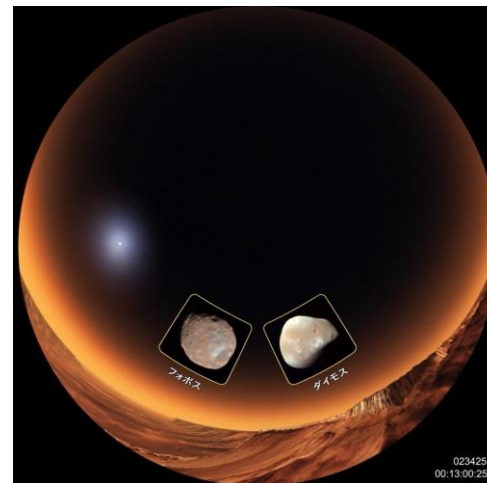
【映像】

◇通常プラネタリウム作品のフォーマット

4096 x 4096 ドームマスター形式

30fps

png連番



◇壁まで利用したい場合はエクイレクタングラー

・ 8Kの場合；16384×8192pix（ただし下3368pixは投映されないなので黒味でも可）

・ 4Kの場合；8192×4096pix（ただし下1684pixは投映されないなので黒味でも可）

※壁より下の投映されないエリアは、以下のように計算します。

例：8K $(8192 / 180) * (90 - 16) \div 3367.8222 \div 3368$

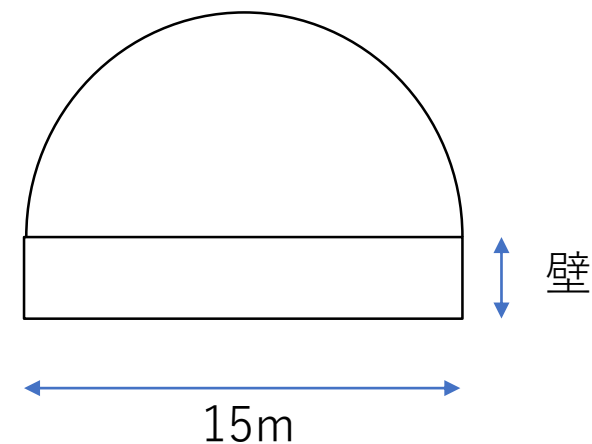
30fps

png連番

【音響】

24bit 48khz 5.1ch wav

音にこだわりたい場合は22.2chも可



制作手法

他社サイトですが、以下がよくまとまっております。

https://www.orihalcon.co.jp/technologies/documents/how_to_make_immersive_movies.html

1. ゆがみの問題

VR制作の技術があれば、その方法でも大丈夫です。3D空間にオブジェクトを置いてカメラを置いて、レンダリングする方法。

平面的に制作を進めるのであれば、AEのエフェクト「VRコンバーター」を使用するのが、良いと思います。キューブマップ⇄エクイレクタングラー⇄ドームマスターが自由にできます。

<https://helpx.adobe.com/jp/after-effects/how-to/vr-converter-effect.html>

2. 確認方法の問題

ドーム外で映像を確認するために制作会社が使っている方法はamateras dome player（フリーソフト）で再生しながらoculusで見る方法です。ドーム経などの設定もできます。

<https://www.orihalcon.co.jp/amateras/domeplayer/>

とはいえ現場で観るのとは違いますので、制作中は何度かドーム確認を行います。

ドーム確認はスライスを省き、2Kのmp4で行うことが多いです。

制作手法

3. 視点について

正面の45度~50度あたりを、リクライニングシートに座った観客が見る「スイートスポット」と呼んでいます。

通常の作品はそこを軸に演出を考えていきます。

スイートスポットを軸にしながら、どれだけ周りを見回すように観客を誘導できるか、というのがひとつの演出の考えです。

ドームはすべてが視界に入らないので、視線の誘導をしないと見逃される可能性があります。

4. 情報量と編集ペース

スクリーンが大きいいため、平面映像の感覚で映像を作成し、編集すると、観客が情報を咀嚼できないことがあります。

PCでドームマスターを見ると遅いと感じるぐらいがドームではちょうど良いペースになることが普通です。

5. 酔い

VR同様に、映像をあまり速いスピードで動かすと酔います。

制作手法

6. 色とコントラスト

映画とは違い、背面スクリーンの反射で映像のコントラストや彩度が下がって見える傾向にあります。そのためポストプロで、彩度やコントラストを上げたカラコレをします。

また背面の反射を抑えるために、そちら側（ちなみにプラネタリウムでは背面を“北側”、正面を“南側”といいます）の絵を暗くするクリエイターもいます。

ただDome1はプラネタリウムとしては例外的にプロジェクターが明るいため、比較的意図に近い映像を出しやすいと思います。

色とコントラストの変化については、早めにドームテストで確認をするのが良いと思います。

星空ラウンジ向けの仕様

◇本編尺 2分～10分

※タイトルは共通のタイトルカードを使っていますので、本編に含めないでいただければと思います。タイトルの下に内容についての簡単な説明を加えた静止画を、30秒投影しています。

(美術館の説明書きのイメージ)

※クレジットも本編内に入れなくて結構です。時間調整の関係で、今のところ上映時間の最後に全作品の情報をのせた1枚で表示させています。(オムニバス映画のエンドクレジットのイメージ)

◇2、30代カップルや女性連れが中心で、ファミリーも来るため、年齢制限が必要な表現や過度に不快な表現はさけてください。(短い作品でもあり、内容をターゲットに迎合する必要はないと思っています)

◇途中入退場が自由な時間ですので、必ずしも初めから見ていただけるとは限りません。

◇天文に関わることをインスタレーションのように…というのが今のところの作品です。

科学のビジュアライゼーションであれば、枠の意図にマッチすると思います。

◇他新作の投入により上映回数が減っていくかもしれませんが、1年半ほど上映をする可能性があります。